

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100011		
法人名	株式会社 マル若商店		
事業所名	グループホーム ホープ		
所在地	岐阜県多治見市希望ヶ丘2-1-2		
自己評価作成日	令和6年1月28日	評価結果市町村受理日	令和6年4月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvossvoCd=2191100011-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者様がその人らしい暮らしが出来るよう寄り添い 毎日を笑顔で過ごしていただく事を、職員で話し合いながら介助をしています。 虐待に結びつかないよう、職員同士で切磋琢磨し、安全で安心できるような視点で検討、実施しています。 利用者様、ご家族様にご満足いただいていると感じています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人は、本ホームの他にも複数の事業所を運営している。新しく福祉事業部を設け、各事業所間との連携を推進し、管理者の業務改善と管理者同士の連携が円滑に行われている。職員として看護師を配置し、訪問看護ステーションとも連携しながら、これまで以上に利用者の健康管理と看取り体制を充実させている。機械浴の導入や資格取得の奨励等、職場環境の改善と共に人材育成に取り組んでいる。職員の協力体制により、外国籍職員の採用や指導に繋がりが、互いの文化を理解し合うなど、一体感も生まれている。現在、法人全体で事業所運営を刷新しながら、利用者サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家族や地域との関係を維持しながら、一人一人の利用者様に合わせたサービスの提供が出来るよう、常に管理者と職員がコミュニケーションを取りながら、検証・実施をしています	法人理念を玄関ホールに掲げ、職員は名札の裏に記載された理念を随時確認しながら、日々、理念の実践につなげている。毎月の職員会議でも、理念の意義について再確認し、正しく行なえているかをふり返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の町内会の行事に職員・利用者様と参加、運営推進会議の声かけにて民生委員様や、区長様に参加して頂いています	自治会に加入しており、回覧板で地域の行事や情報等を確認している。正月行事のどんど焼きや集会所の草刈り、清掃活動等に参加している。コロナ感染対策も緩和され、今後は、地域の人に事業所の行事に参加を呼びかけ、地域交流をしていく予定である。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	多職種連携の中で、病院・地域包括・町内役員・利用者様のご家族と参加して頂き、事業所だけでなく、会社の方向性や取組みを公開し、参加者様のご意見も活発に頂き、今後のサービス向上に活かしています	これまでは書面開催であったが、12月から集会所で対面の会議を開催している。事業所の活動や利用者状況、身体拘束や虐待防止、ヒヤリハット等を報告し、参加者から出た質問に応え、意見をサービスに活かしている。	運営推進会議は集会所での開催である。今後、状況を見ながら、参加者に利用者の状態と生活の場の見学を兼ね、事業所での開催に期待したい。
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	民生委員や町内委員との連絡を取り、行事等への参加、行政との連絡も運営推進会議他、サービスに関しての方向性や指示をいただきよい協力関係になっています	市担当者とは運営推進会議やケア会議で、事業所の活動状況の報告や困難事例等を相談している。本部の統括役員が随時行政の窓口に出掛け、事業所で必要な情報を共有しながら、行政との協力関係を築いている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して、職員会議で研修や具体的な検証や一人一人の利用者様に対しての、適切なケアについて話し合っています	身体拘束廃止委員会を定期的で開催している。毎月の職員会議で、拘束に関する指針・定義について話し合い、止むを得ず拘束が必要な場合についても、適切な対応を定めている。研修は年間研修計画として組み入れ、実施している。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のアンケートを、職員会議等で定期的に行い、管理者は職員のサービスに対して常に目を配り、虐待に繋がらないようにしています と共に、職員のメンタルに対しての配慮もしています	虐待防止については、職員会議で話し合い、職員を対象としたアンケート調査も定期的実施している。管理者はコミュニケーションを図りながら、職員のメンタル面もサポートするよう努めている。令和6年度より、虐待の防止のための対策を検討する委員会の開催が義務化となるため、議事録の整備も課題である。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	引き続き、必要に応じて社協と協議し、適正かつ継続的な援助を受けられるようにしています		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所希望者様には、見学や契約内容についての説明を細かくし、疑問やご希望をお聞きして、納得・ご理解いただいてから契約をしています ご不明な点は、随時説明させていただきます		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議だけでなく、問題が発生した時等、ご家族様のご意見がいただける関係性を構築し、職員間での話し合い、外部連携の関係性も構築し運営に反映させるようにしています	毎月、家族に郵送する「ホープ便り」に、利用者直筆の絵手紙を添えている。また、看護師からの利用者個々の健康面の報告は、隔月で便りに記載している。家族の面会時には意見を聴く時間を設け、運営に反映させている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	福祉事業本部を設置し、施設間の横のつながりを深め、管理者の負担を軽くする取組みをしています 全職員の意見が運営に反映されるよう、統括による施設訪問等を行っており、現場からの意見がよく聞こえるようになっていきます	毎月の職員会議は、管理者、看護師、ケアマネジャー、介護職員、技能実習生も含めて実施している。法人として、現場の声を聞く体制ができており、本部の統括役員が事業所を巡回しながら、職員の意見を聞き取り、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	上記の様に、福祉事業本部を設置することで全体の状況、職員の勤務状況や努力が把握でき、シフトの問題解決や環境整備も進んでおり、職員の意識も向上していると感じています	福祉事業本部の担当者が、全体の状況と職員の勤務状況を把握し、円滑なシフト管理で運営に取り組んでいる。職員個々のワーク・ライフ・バランスにも配慮し、就業環境を整備している。休憩時間確保や休憩室の工夫などを、今後の課題としている。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員不足で研修も進んでいませんでしたが、職員の入社や移動で、少しですが余裕も出て来ていると思います 今後は研修や資格取得のサポートをしていきます	年間研修予定表を作成し、毎月の職員会議の中で実施している。リモート研修を含めた外部研修の機会を多くし、資格取得の支援や法人の施設間交流を通して、職員の向上心につなげるなど、人材育成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	社内他施設の職員との交流(管理者、ケアマネ、看護師、介護士)や、今後は他事業所の職員との交流も進めていきたいです 提供する食事の試食会を計画しています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事はやって頂き、感謝し認め合うことで一緒に暮らしているという関係性を構築しています 利用者様の先輩としての教えを受け止め、尊敬することで介護される側ではなく、人生の先輩として共に時間を過ごす関係になっています		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	上手く表現できない事も、日頃の関係性で職員がくみ取り、利用者様の希望や意向を職員同士で話し合いながら、それに沿うようにしています	入浴支援や散歩などの個別支援時に、利用者の思いや希望を聴いている。新たに得られた内容は職員間で共有し、日々の支援に反映させている。意思疎通が困難な場合は、表情や仕草等から思いを汲み取っている。利用者の「夕方に入浴したい」という希望があり、叶えている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の職員会議で、利用者様一人一人のカンファレンスを行い、介護だけでなく医療面や家族様の意向も合わせて検討し、今後のサービス計画に反映させています 利用者様の体調等の変化にもすぐに対応できるよう連携しながらリアルタイムでも検討しています	ケアマネジャーも現場に入り、利用者の状態を把握している。前回の介護計画書やモニタリング表をもとに、家族や職員、看護師、医師の意見などを集約しながら介護計画を作成している。利用者や家族の意向も出来る限り反映させている。	感染症拡大状況にもよるが、サービス担当者会議は、家族との連携を深める機会と捉え、可能な限り本人や家族の参加を得て、意見交換しながらの介護計画作りに期待したい。
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの気付きを記録に残し、利用者様一人一人の申し送りノートでも職員間で情報共有しています 介護ソフト導入により、施設全体での情報交換が出来るよう進めています	個々の生活支援の介護記録は、タブレット端末での入力を導入し、全職員が活用している。利用者の意見や要望も利用者個々のノートに書き、業務上の伝達事項は申し送りノートに記述している。電子化と紙ベースを併用しながら、職員間での情報共有と実践へ活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設が複数あるので、様々なニーズの把握ができ、施設全体(管理者)で話し合いながら、本部を中心に今までにとらわれないことなく、柔軟な支援サービスができるよう進んでいます	法人が運営する複数の事業所と連携しながら、利用者のニーズに合わせて柔軟な対応で支援につなげている。家族や利用者の希望で、病院への同行や必要物品の購入代行に応じている。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症カフェ等の地域での活動や地元のイベント等への参加を積極的に行い、参加により利用者様の心身の向上に向けて行きます 本部にて得た情報を、施設全体で共有し、参加についても協力しあっています		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の把握と共に、連携している 往診医とも情報を共有しており、更に専任看護師や新たに契約した訪問看護ステーションとの連携により利用者様の状況共有がスムーズになり関係性は向上しています	契約時に、かかりつけ医が選択できることを説明しており、現在、ほとんどの利用者が協力医をかかりつけ医とし、定期的に往診を受けている。専任看護師と訪問看護ステーションが連携を図りながら、24時間の連絡体制を整え、本人・家族の安心に繋げている。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際には、看護師が病院との情報交換に努め、ご家族様の相談にも対応しています 日頃からの連絡にて、看護師と病院との関係性に信頼関係もあります	日頃から、入院先の病院と連携し、入退院の対応は、専任看護師が対応している。入院時は本人の状態を詳細に伝え、家族と相談しながら進めている。病院及び家族と連携しながら、早期の退院支援に努め、職員と話し合いながら受け入れ体制も整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病院とご家族様との話し合いから、看取り計画書を作成し病院との連携を図りながら、利用者様やご家族様にとっての最良な終末期を過ごしていただけるように、職員全体で取り組んでおります	契約時に、重度化や終末期の対応についての指針を基に家族に説明し、同意を得ている。利用者の状態変化の都度、話し合いを重ね、職員間で共有しながら利用者や家族の安心につなげている。職員は看取りについての研修を重ね、これまでに数多くの看取りを経験している。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応を内部の研修や、消防署の研修にて情報を収集し、実際に行動できるようにしています AEDの設置・研修も行い、看護職員、訪問看護ステーションとの連携により24時間体制で急変や事故発生時に備えています		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民の避難場所としての意識を持ち、災害時における施設の行動指針を作成 職員会議でも、災害に対する研修やシミュレーションをしています	夜間想定を含め、年2回災害訓練に取り組んでいる。訓練内容と様子を運営推進会議で報告し助言を得ている。備蓄品の整備と定期点検を行い、現在BCPの作成中である。水害・地震についての災害訓練は今後の課題としている。	災害時における福祉避難所として、市と協定を結んでいる。今後、地域の防災訓練にも参加し、事業所の災害避難訓練には地域の人の協力を得るなど、双方での協力体制を整えながら、防災対策の強化に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員会議にて利用者様一人一人を尊重する、プライバシーを確保する話し合いを重ね、実際の介助でも人格の尊重や誇りを損ねないよう意識し合い、管理者だけでなく職員同士でも注意しあえる関係性の上でサービスを提供しています	年間研修計画にプライバシー保護や接遇についての研修を組み入れ、全職員が学んでいる。常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、言葉遣いについても誇りやプライバシーを損ねない対応に努め、職員間でも注意合っている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や自己決定を表現しやすい環境や信頼関係を築く事をしながら、希望を表現する事や自己決定が難しい利用者様には、気持ちをくみ取れるよう、細かな表情や表現を見落とさぬようにしています		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーションや体操は皆様と一緒にの時もありますが、一人一人のやりたいことを楽しんでいただく時間も作り、希望に沿った一日を過ごしていただいています 散歩、塗り絵、お喋りなど、職員の見守りの元でゆっくりと過ごされています		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	安心・安全に配慮した食事形態で、和やかな雰囲気の中召し上がっていただいています 準備や片付け等できる方には手伝っていただいています 行事食やお誕生日のお祝いなど、工夫をこらしながら、楽しんでいただきました	食事は専門の宅配サービスから食材が届き、調理専門の職員が昼夕の食事を調理している。朝食は職員が当番制で準備している。個々に適した食事形態で提供し完食に繋がっている。おやつなどは利用者と一緒に作り、行事食や誕生日の特別メニューの提供で食べる楽しみに繋がっている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	嗜好の偏りのある方には、家族様の協力も得てお好きな物を召し上がっていただく事もあります 栄養バランスの整ったメニューでの提供や、食事量・水分量の記録をして食事形態や調理方法を検討しながら支援しています		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方は声掛けし見守り、時には仕上げをしています 自己にての口腔ケアが難しい方には、歯磨きの介助やスポンジやシートを使い、口腔内の清潔を実施しています	利用者の自立支援を基本とし、自分で出来る人には声掛けや見守りを行い、サポートが必要な人には、状態に合わせて支援している。最後に職員がチェックし、口腔内の清潔保持に努めている。治療が必要な時は家族に連絡し、歯科受診を勧めている。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、排泄パターンを把握しています 尿意があまりない利用者様にはは早めの声掛けや誘導をしています 排泄の際の立ち上がりや、脱着等出来る所はやって頂いています		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴に対して「入りたくない」とおっしゃる利用者様には、「入ろうかね」のタイミングを声掛けしながら待ち、入浴して頂いた後に「気持ち良かった」と仰っていただくなど、個々に応じた支援をしています		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各利用者様の体調に合わせて休息をとっていただけるよう、日中と夜間のリズムをつけて安眠に繋がるよう支援しています 安心して入眠されるよう、心配な事や話をされたい事をお聞きして穏やかな時間を作っています		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は医療ファイルを確認し、看護師による配役チェック、服薬時には日付・氏名・時間・錠数等確認、飲み込み迄見守る事を徹底しています また服薬後には空袋を再度確認し、何重にもチェックしています	薬の管理は看護師が行い、職員に注意点を説明している。服薬時は職員が確認作業を徹底し、誤配や飲み残しを防止している。薬の変更時は利用者の変化に注視し、その情報は管理者と看護師に報告している。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の下ごしらえ、テーブル拭き、食器の片づけ等、出来る方にはお願いしています お誕生日会や季節に合ったおやつなどの提供で楽しんでいただいています	利用者個々の残存機能に合わせて、日常の手作業、食事の手伝いやおやつ作りなど、役割りをもって関わられるようサポートしている。作業後には、職員が感謝やねぎらいの言葉かけをしている。歌や体操など、楽しんで出来る事で、笑顔を引き出している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分転換・体力向上の為近所を散歩し、地元の住民の方との触れ合いを持って頂いています お正月にはどんど焼きに参加し、町内の行事にも参加して頂いています コロナ等の感染が落ち着いている時には、家族様との外出もされるよう支援しています	天候や利用者の健康状態を見ながら、近隣や近くのグランドまで散歩をしている。コロナ禍で外出の機会が少なかったが、今後は、状況をみながら外出の機会を増やせるよう支援し、地域とのつながりも深めていく予定としている。	

岐阜県 グループホーム「ホープ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設にお預かりしているお小遣いの中から、パジャマや身の回りの必要な品をスタッフと話し合い、ご家族に連絡しながら購入しています 現在は利用者様がご自分で所持されるのは難しい状況です		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からのお手紙等はスタッフが読み上げさせて頂いたり、スマホ等で連絡されたりしています 毎月出来るだけご本人に書いていただく絵手紙を、家族様に送らせていただいています		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	電灯はその時の精神状態に合わせて変えたり、室温・陽射しにも配慮しています 壁面に季節折々の絵や小物等を貼り、季節感を楽しんでいただいています クリスマスツリー飾りも利用者様と一緒に作り、お正月には書初めも行いました	共用空間は、食堂と寛げる場所を分けている。壁面には、個々の手作り作品や季節感ある共同作品を掲示している。テーブルやゆったりとしたソファが複数設置され、利用者は好きな場所で寛ぐことができる。適切な温湿度管理に努め、清潔感ある環境作りに努めている。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに大きなソファを置き、自由に会話を楽しんでいただいています 時々1階と2階の行き来をすることで、気分転換をしていただいています 疲労が見られる時には、居室にて安んじていただいています		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規の利用者様には、好みの家具をお持ちいただいたり、ご家族の写真を持ってきていただいたりしています 身の回りの物は、できるだけ使い慣れた物を持って来ていただいています		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台が上下可動式、浴室の手摺りなどで一人一人に対応でき、清潔の自立に繋がっています 居室の入り口に名前のプレートと写真等を飾る事により、ご自分のお部屋をわかりやすくしています		